

## 葦毛湿原について

### 葦毛湿原

所在地：豊橋市岩崎町字長尾75番47外 16筆

指定面積：32,684 m<sup>2</sup>

#### 【概要】

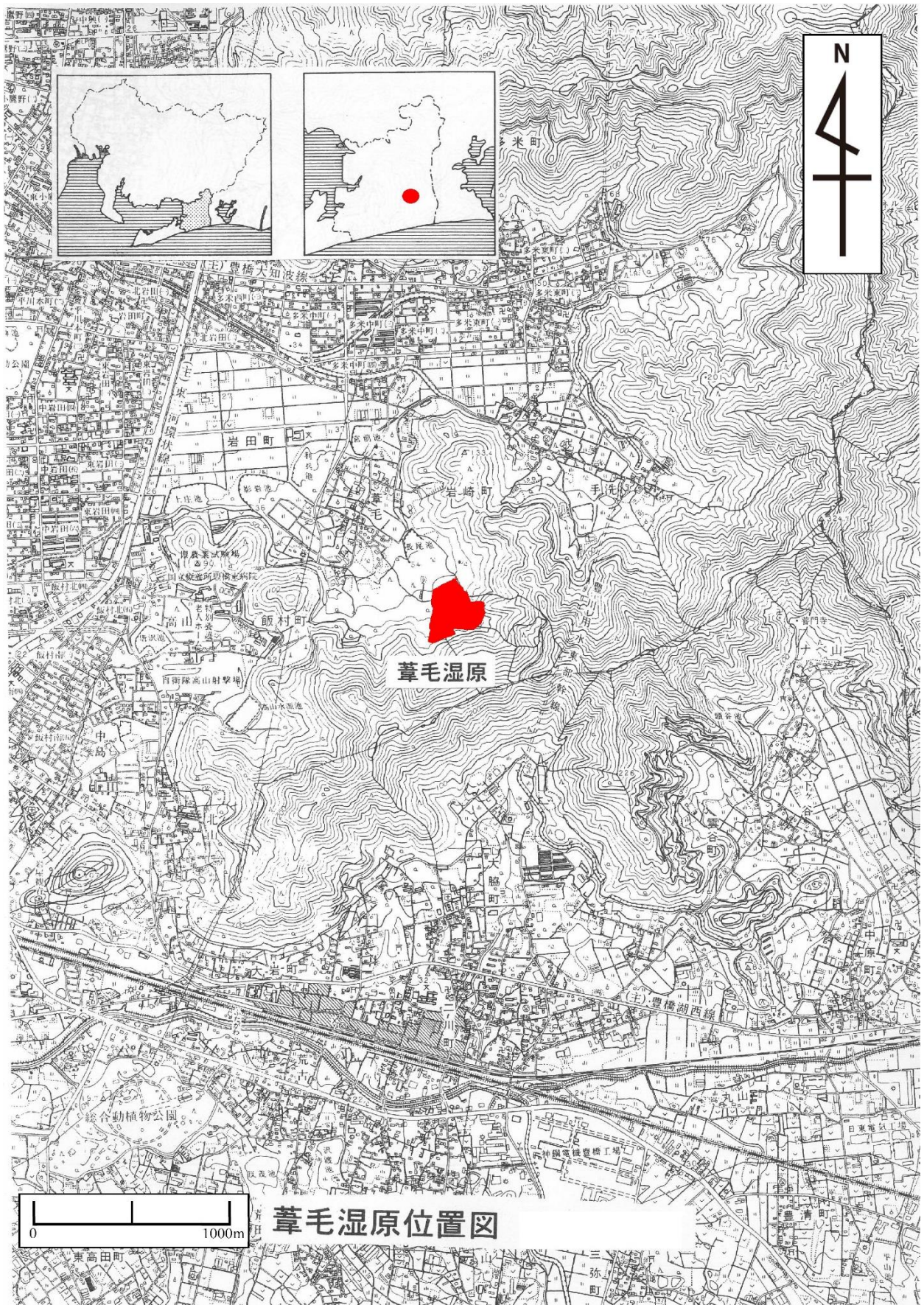
葦毛湿原は、豊橋市東部にある弓張山地の標高 60～70mの山麓に位置する緩斜面に広がる湿原で、土壌が薄く、常に水が地表面を流れているという特徴をもつ湧水湿地である。山の上部の帯水層から徐々に水が流れ出して数本の沢となり湿地を潤し、湿地上部では、沢と沢をつなぐように等高線に沿って線状に湧水があり、緩やかな斜面を広く水が流れている。

葦毛湿原は、南方の暖地系植物や北方の寒地系植物、大陸系遺存植物が混在して見られる国内最大級の湧水湿地である。また、東海地方に特有の「東海丘陵要素植物群」と呼ばれる植物群の主要な生育環境となっており、このうち、葦毛湿原に自生する植物には、トウカイコモウセンゴケ、ミカワシオガマ、ヒメミミカキグサ、ミカワバイケイソウ、シラタマホシクサ、クロミノニシゴリの6種が確認されている。

葦毛湿原周辺の山は、江戸時代には吉田藩の藩有林として管理されてきた記録が残っており、さらに、幕末の1868（慶応4）年の多米村の証文から各村が藩有林の管理を行っていたことが確認できる。周辺の村々によって山や草地が管理、利用され続けることにより、湿地として維持されてきたと考えられる。

明治時代になると、藩有林は国有林となり、昭和40年代以後、スギ・ヒノキが植林され、葦毛湿原周辺にあった湧水湿地のほとんどは森林化した。葦毛湿原は湿地として大規模であったがゆえに近年まで森林化を免れていた。しかし、近年森林化が葦毛湿原中心部にも及ぶようになり、2013（平成25）年から豊橋市教育委員会による大規模植生回復作業が行われている。

葦毛湿原は異なる生育環境由来の植物が混在し、地域固有の植物群が生育する特異な生態系であり、生態学的、植物地理学的に価値が高い。また、古くから人との関わりの中で管理されており、典型的な植生を保っている、代表的な湧水湿地である。



葦毛湿原の位置



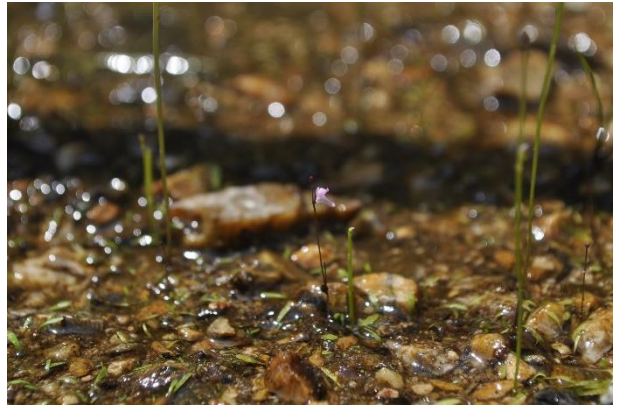
葦毛湿原 中心部



葦毛湿原 三の沢湿地下流部



トウカイコモウセンゴケ



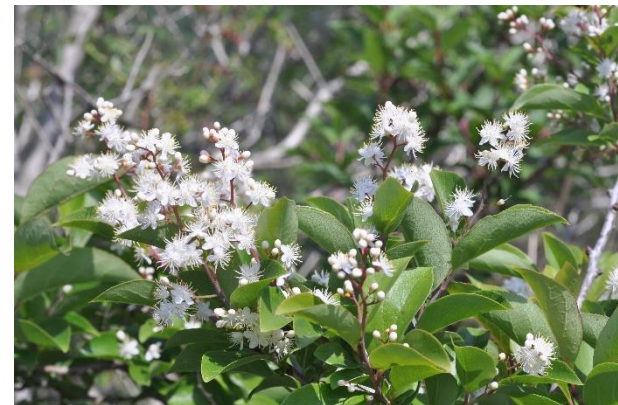
ヒメミミカキグサ



ミカワバイケイソウ



シラタマホシクサ



クロミノニシゴリ